

平成31年度一般会計予算を とことんチェック！

平成31年度予算は、3月6日に提出され予算・決算特別委員会（委員長 河村善一）に付託された。当該予算は、実質的には有村町政となつて初の予算編成である。また、「第2次愛荘町総合計画」に基づく新たなスタートの初年度であり、4部門での小委員会を開催するとともに、予算・決算特別委員会において慎重に審査を行った。同特別委員会での質疑内容の一部を掲載する。

総務部門

問 愛知高校教育振興会補助金が40万円から半減された。その理由は。

（西澤 桂一議員）

答（町長）

合併前の旧4町時代に各町から10万円ずつの補助金額計40万円を継承していたが、旧2町分に戻した形で半減させていただいた。愛知高校は、地域共学を掲げられ、地域においても重要な学校である。



県立愛知高等学校

問 国内の姉妹都市（栃木県那珂川町）交流について、近年目立った交流がなく、予算計上も無いと思うが、町長の考えについて問う。

（村西 作雄議員）

答（町長）

近年は、物産関係での交流事業を行っている。次年度以降、ベスト・ペターな交流のあり方を検討していきたい。

問 30年度に設計を行った東部地域の防災倉庫の建設費が、新年度予算に計上されていないのはなぜか。

（村西 作雄議員）

答（危機管理対策室長）

31年度に工事発注の予定であったが、各種事情により資材の高騰が予想されることから見送っている。有利な時期を見計らって発注したい。

問 庁用バスの利用に際し、燃料費負担または使用料の徴収等の検討をされると聞かすが、手数料・使用料等の見直しについて、どのように考えているのか。

（辰口 保議員）

答（町長）

手数料・使用料等については、合併前の旧2町の考え方がそのまま継続され今日まで来ている。先送りされていた案件にも、しっかり向き合わなければいけないと思っている。

問 グランドデザインに対する町長の構想について尋ねる。

（辰口 保議員）

答（町長）

愛荘町のまちづくりが進められる中で、土地利用、産業振興のデザインを作っていくというところである。



現在運行中のあいのりタクシー

問 町内の特に東部地域にバス路線が無い状況で特に高校生の通学に苦慮されている。調査費の計上等は検討できないか。

（澤田 源宏議員）

答（総合政策部長）

バス路線の空白地域は、あいのりタクシーでカバーしている。4月からは定期券の発行もされ、また複数人の乗車があれば半額制度などもある。

問 防災無線機器の更新に当たり、平成32年度までに行えば国の財源措置がある。現在の進捗を尋ねる。

（村田 定議員）

答（危機管理対策室長）

町職員で2年前から検討を行っている。31年度上半期に方向性を示し、32年度以降で順次整備を行っていく。

民生部門

問 学童保育所の運営について、どのような進捗状況か。

（瀧 すみ江議員）

答（子ども支援課長）

学童保育所運営については、実施する。また、指導者には教員免許を有したものを配置する。

問 教育指導員の月額賃金、幼稚園・小学校の支援員の時給の減額がされているのはなぜか。

（瀧 すみ江議員）

答（教育振興課長）

教育指導員については、予算的な事情も考慮し、週4から週3に変更した。支援員は、有資格者でないことから減額を行った。

問 財政的な理由があるとのことだが、教育の充実を思うなら、あり得ないことと考える。

（瀧 すみ江議員）

答（教育主監）

教育の充実については、スクールサポートスタッフの配置、部活指導員の配置、放課後補充教室の実施など、全体として効果的な充実を図っていききたい。

産業建設部門

問 中山間地域等直接支払交付金の対象地域について、国・県の方針に反して、町が対象地域を絞り込むのはなぜか。

（村西 作雄議員）

答（農林商工課長）

制度の前提として、「農業の生産活動が不利な地域における農業生産活動を継続する」というものがある。このことから、町では「山間部に位置し、獣被害が著しい地域」という要件を定めている。

教育部門

問 スクールサポートスタッフ、部活動指導員の配置に伴う成果と課題について問う。

（徳田 文治議員）

答（教育主監）

総体的に、教員の時間外労働の減少がみられた。特に、スクールサポートスタッフは、教員の児童生徒への指導

問 空き家対策のうち危険な家屋への対応はどのようにしていくのか。

（瀧 すみ江議員）

答（建設・下水道課長）

今後、特定空き家を認定していく中で、助言・指導・勧告という考えを持っている。

問 町内の橋梁は、約160橋あるが、維持しているのか。

（村田 定議員）

答（建設・下水道課長）

平成24年度に策定した橋梁長寿命化計画に基づき、順次予防保全を行っている。



中学校での部活動の様子

問 放課後児童補充教室の考え方について問う。

（徳田 文治議員）

答（教育主監）

抽象的・論理的な学習内容が始まる小学校3年生を対象に、学力の定着・学力の二極化の解消・学力向上を目的に



対象地域と見込まれる岩倉地区の農地

答（町長）
在宅医療の方針にあたり、激励金以外の仕組みはここ数年で示されてきた。苦しい部分はあるが、行政として介護保険のサービスの中で支援を考えていきたい。